

2月11日 みやまえ9条の会講演  
憲法9条と再生可能エネルギー社会  
-再生可能エネルギーが世界の紛争を解決する-

竹村英明（市民電力連絡会会長/緑茶会代表）

1, 後藤健二さんは何をめざしていたのか。

戦争や紛争によって、平穏な日常、安全、安心、財産、生命を奪われる人々に寄り添い、その現実を世界に知らせる。知らせることで、戦争や紛争が抑止されることをめざした。→日本の憲法はそれを保証している・・・はず。

2, 戦争や紛争の原因は何か

領土をめぐる争いのほとんどは資源がからむ。原油、天然ガス、レアアース等鉱物資源、あるいは産業技術、工業地帯、技術者の存在・・・。尖閣諸島問題も石油資源。→宗教対立や部族対立は隠れみの。平和であれば水や食料は確保できる。対立をあおる兵器産業。

3, 対立をあおる原因をなくすること

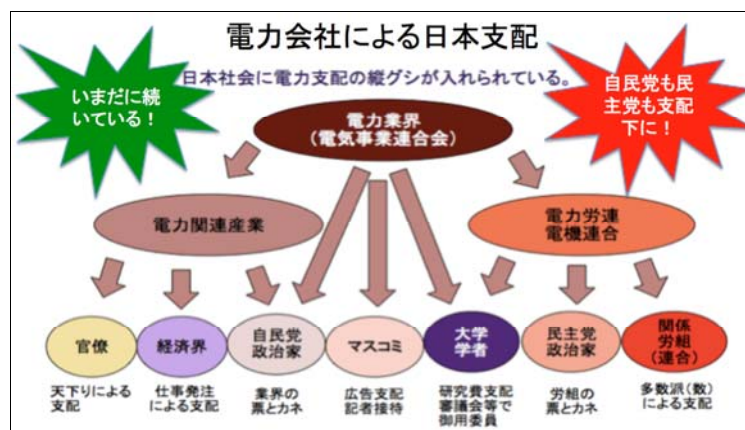
シェール革命と原油価格下落の関係。資源価格をめぐる激しい駆け引き。世界の経済を混乱させる。→化石燃料の無力化が必要。化石に代わるエネルギー。有限資源のウランではなく、無限資源の再生可能エネルギー。

4, 核兵器と原発の深い関係。

しかし、化石に代わるエネルギーを原子力と錯覚してしまった。1970年に再エネに時代が到来していれば、世界は変わっていた。核兵器技術温存のための原子力発電。原発は双子の兄弟。→「核兵器オプション」としての原発、再処理、核燃料サイクル。核廃棄物を無尽蔵に増やす仕組み。軍事的思考。

5, 原発と再エネ、その利権の構造。

日本では原発が大きな利権に成長。電力会社の「総括原価方式」で原発依存という病気に。海外ではコスト問題から再エネにシフト。→日本でも「原発が安い」はウソだったと電力会社が認める。逆に高いから、電力自由化後は「原子力賦課金」をよこせと言いはじめている。



## 6, 電気的一生と電気のごみ。

コンセントの向こう側を置き去りにした私たちの暮らし。電気のごみの大部分は原発からのゴミだった。太陽光発電などの再生可能エネルギーからのゴミは少ない。→基本的に家電製品や自動車などの生活資材と同等。大量の放射能や汚染物質、大気汚染や地球温暖化を引き起こすCO2も出ない。

## 7, 原発をはるかにしのぐ再エネの力。

風力発電のポテンシャルだけでも日本を4つまかなえる。原発ゼロ、化石ゼロで、じつは何の問題もない。→省エネも含め、分散型の再生可能エネルギー社会に進む方が、経済効果が抜群で、日本経済は間違いなく好転する。200兆円を超える経済効果。

## 8, 地球温暖化とピークオイル。

1970年代に再生可能エネルギー時代への舵を切っていたら、心配することのなかった2つの問題。化石燃料の使いすぎによる地球温暖化（気候変動）と、化石燃料が有限であるゆえの枯渇の問題。→どちらも再生可能エネルギーで解決可能。

## 9, 電力システム改革と電力会社の闘い。

東電や関電が追いつめられている電力自由化。全国送電網や地域の配電網を電力会社と切り離し、道路のような「公共物」に変える。そのインフラを奪われまいとする「イチデン」の反撃。→この間の系統接続問題と、送電網からの再生可能エネルギー排除。

## 10, 市民が電気を「取り戻す」日。

じつは電気は誰でも作れるもの。FIT（固定価格買取制度）で全国に広がる市民発電所。地域市民団体や自治体による新電力。→消費者側が「電力小売」の力をつけて、安全、安心、安定的な電力の供給。

## 11, 「第4象限」の政治的パワーを

古賀茂明氏によれば、日本は「第4象限の党」が消えている。多くの有権者の投票先がない。第4象限とは「改革派+平和派。」→いきなりはできないので、今度の統一地方選がとても大事。

**自然エネルギーのいろいろ**

- 太陽光：発電
- 太陽熱：熱利用、発電
- 風力：発電
- バイオマス：熱利用、発電
- 水力：発電
- 地熱：熱利用、発電
- 海洋エネルギー(波力・潮力)：発電
- R水素：(自然エネルギーの電気で作った水素による発電)



デンマーク・サムソ島の洋上風力発電 (23MW)。年間7500万kWhを発電し、島外に販売している。

調布まちなか発電の市民発電所(分散型合計1MW)

バイオマス発電所 合板工場に併設 (1.17MW)

八丁原地熱発電所 大分県 110MW

スペイン・セビリヤにあるGemasolar集光型太陽熱発電 (CSP) 所の空撮写真。(写真:ビジネスワイヤ) 19.9MW、アンダルシア地方の2万5千世帯に電力供給開始。

以上